

教員の個人評価（教育の領域）について

Evaluation of individual faculty members through education activities

永井 明博
NAGAI Akihiro

1. はじめに

岡山大学では教員の個人評価を平成 14(2002)年度に試行し、平成 16(2004)年度から本格的に実施している。この個人評価は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の4領域の活動内容について、各教員が『教員個人評価調査票入力システム』に入力したデータに基づき行われる。評価は3年に1度、過去3年度分の活動内容（ただし、研究活動は過去5年分）について行われる。

JABEE の基準 3.3 教育組織(3)では「教員の教育に関する貢献の評価方法が定められ、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って評価が実施されていること。」とされているが、これに該当するような取組を全学的規模で実施している大学はあまり多くはないようである。以下では、岡山大学が実施している教員の個人評価のうちとくに「教育」の領域を中心としてその概要を述べる。

2. 教育の領域における評価項目

各教員は、上記の4領域における所定の項目について自己評価してその結果を個人評価調査票（自己点検書）にまとめ、部局長に提出することになるが、教育の領域については、各授業科目ごとに下記の項目を記述・説明したものを年度ごとに作成する。

- | | |
|--|--------------------------|
| (1)教育活動の名称および種別 | (2)教育達成目標 |
| (3)学生による授業評価 | (4)目標達成状況とその理由(200～300字) |
| (5)授業に対する取組と改善方策(課題：300～400字、改善点：200～300字) | |
| (6)活動データ | (7)教育実践記録 |
| | (8)その他 |

3. 教育活動の評価の視点

教育領域における上記の評価項目についての評価は、授業科目ごと、年度ごとに行われ、評価の視点の主なものは次のとおりである。

- ・個人評価調査票（教育）は客観性をもって適切に書かれており、必要な資料はすべて添えられているか。
- ・評価項目(1)～(8)についての自己評価は、学部・学科の教育理念・目標・目的に照らして適切か。また自己評価した根拠は示されているか。
- ・学生の授業評価に対する教員自身の評価・分析は説得力を持ち、妥当であるか。またそれを受けての授業改善は実効性のあるように計画されているか。
- ・学生の達成度を的確につかむ努力をしているか。あるいは実際につかんでいるか。
- ・前回指摘された改善点について、実際に改善の取組がなされたか。またはそれは効果を上げたか。

所属：岡山大学大学院環境学研究科，Okayama University

キーワード：JABEE，教員の個人評価，教育活動の評価

4. 各領域の評価と総合評価

部局長は、各教員から提出された個人評価調査票（自己点検書）に基づいて、上記4領域のそれぞれについて、「特に優れている（5点）」「水準を上回っている（4点）」「水準に達している（3点）」「やや問題があり改善の余地がある（2点）」「問題があり改善を要する（1点）」の5段階で評価する。

その上で、総合評価は、各領域に対して個々の教員が申告した重み（重みの計は10）を乗じ、「優れている（40点以上）」「おおむね適切（30点以上40点未満）」「やや問題があり改善の余地がある（20点以上30点未満）」「問題があり改善を要する（20点未満）」の4段階で行われる。

この評価では客観性を高めるため「部局においてその活動を知る他者が評価する」となっており、2002年度の場合、われわれの環境理工学科学科の教員についての実質的な評価の作業は、学科内に設置された自己評価委員会が行った。

5. 評価結果の通知

各教員が提出した個人評価調査票に基づいた評価結果（各領域の評価および総合評価）は、今後の教育改善に役立てるために、各個人にコメント付きで個別に伝えられた。また、評価の結果「やや問題があり改善の余地がある」または「問題があり改善を要する」とされた教員は「活動改善報告書」を提出する必要がある。

6. 開示と公表

教員の個人評価の実施に際しては「岡山大学における教員の個人評価について」が岡山大学の全教員に配布された。学部における評価方法についても「環境理工学部評価実施組織および評価基準」が全教員に配布された。また、岡山大学のホームページ上においても個人評価の概要、指針、評価項目等を見ることができる。

このときに各教員が提出した個人評価調査票に関する情報の一部はホームページ上に公開されており、また、この個人評価の結果の統計として、職種別参加人数、教育活動の評価点別人数、研究活動の評価点別人数、社会貢献活動の評価点別人数、管理運営活動の評価点別人数、総合評価、職種別評価点、職種別重み付け、などもホームページ上で公開されている。（<http://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/tenken/kyouin/kojin.html>）

ホームページ上に公開されている2002年度の結果の概要は次のようになっている。

参加人数 1183人（内訳：教授 418人、助教授 330人、講師 108人、助手 327人）

表1 総合評価

総合評価	40点以上	30以上40点未満	20以上30点未満	20点未満
割合(%)	58%	36%	5%	1%

表2 各領域における評点の割合

領域	5点	4点	3点	2点	1点
教育	37%	39%	23%	1%	0.3%
研究	47%	25%	16%	7%	5%
社会貢献	27%	26%	29%	9%	9%
管理・運営	30%	27%	36%	5%	2%

7. おわりに

ここでは、岡山大学で実施している「教員の個人評価」のうちの「教育の領域」の評価を中心に紹介した。教育貢献評価に係わる議論の資料になれば幸いである。